



テクネ・マクラ「芸術は永し」

# TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第 14 号

2021 (令和 3) 年 3 月 31 日発行

**News Letter, vol. 14**

University's Historical Resources Unit,  
Joshi University of Art and Design



JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

# 創立120周年記念式典・講演会開催

高橋 直子 (歴史資料室学芸員)



女子美術大学創立120周年記念式典



福下雄二理事長挨拶



小倉文子学長挨拶



大村智名誉理事長 ご講演の様子

2020(令和2)年10月30日、杉並キャンパス(7201教室)において、学校法人女子美術大学創立120周年記念式典が開催されました。会場では新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じた上で、40名ほどの関係者が参加。式典の様子はウェブ

サイト上でライブ配信されました。福下雄二理事長、小倉文子学長の挨拶の後、大村智名誉理事長による記念講演会「愛しき園よ、汝は女子美」が行われました。2015(平成27)年にノーベ

ル生理学・医学賞を受賞された著名な研究者である大村氏は、1997~2003(平成9~15)年、2007~2015(平成19~27)年の14年間、学校法人女子美術大学理事長を務め、2003(平成15)年には名誉理事長に就任されました。

講演では、本学の創立にまつわる話や歴史的背景、理事長時代のご苦労、アートとの出会いやご自身のコレクションについて、また、名だたるアーティストの方々とのご交流など様々なエピソードを平易な語り口でお話されました。

# 創立120周年特別番組放映 横井玉子と佐藤志津、女子美術教育に捧げた生涯

高橋 直子 (歴史資料室学芸員)



再現ドラマ 横井玉子(左)が佐藤志津(右)に学校経営への参画を懇願する場面



再現ドラマ 横井玉子(左から2人目)が横井みや、徳富初子とともにジェーンズ夫人(熊本洋学校教師夫人)に西洋料理を習う場面



左：檀ふみ氏(番組ナビゲーター)  
右：原聖氏(女子美術大学名誉教授)

2020(令和2)年10月31日(土)13:00~13:54、BS朝日(BSデジタル5ch)にて女子美術大学創立120周年記念番組「女子は是れ美術の天使なるべし〜玉子と志津、女子美術教育に捧げた生涯〜」が放映されました。

番組冒頭では、幕末の思想家・横井小楠の言葉が紹介され、次に、小楠の甥・横井左平太の妻となる横井玉子の生涯を紹介。玉子が1900(明治33)年、私立女子美術学校(現女子美術大学)創立に至る経緯を辿りました。その後、玉子の後を引き継ぎ、初代校主となり、学校を支えた佐藤志津の生涯と功績が描かれました。

番組のナビゲーターを檀ふみ氏が務め、各所で、原聖氏(女子美術大学名誉教授)や堤克彦

氏(熊本横井小楠研究所)が解説をされました。番組では、2人の生涯を再現ドラマによって紹介しましたが、俳優として活躍している3人の卒業生が出演しました。横井玉子役は奥田恵梨華氏(造形科情報デザイン専攻卒)、佐藤志津役に森脇由紀氏(絵画科洋画専攻卒)、横井みや役は小川オペラ氏(アート・デザイン表現学科ファッションテキスタイル表現領域卒)が演じました。

番組放映後からご覧になった方々より様々な反響が寄せられております。女子美術大学を創り、支えた2人の女性——横井玉子と佐藤志津の功績を顕彰する機会となりました。

# 展覧会「創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年」展開催

高橋 直子 (歴史資料室学芸員)

**美 女子美術大学**

## 言葉ととも ふりかえる 120年

女子美術大学創立120周年記念展覧会

先づ女子に對つて美術教育を施し其の字習せし所を以て女子の工芸手工其の修め日所の業務以上に進めしめ因て以て女子が自活の道に就じ得るに資して女子の社会に於ける位置を漸次高進せしめ次に女子師範学校其の他各種の女子校に於ける美術教師を養成して今日の不仕に足せしめんとす此のあり

吾肉は解剖し、吾骨は学校標本の用に宛てよ (横井玉子)

何事も天なり、命なり、人事を持つて致す事ではない (中絶)

吾肉は解剖し、吾骨は学校標本の用に宛てよ (横井玉子)

女子美術大学創立120周年記念展覧会

12月4日(金) - 12月25日(火)

休室日：火・日・祝日  
7月25日～9月12日、10月30日  
特別開室：4月7日、10月25日  
開室時間：10:00～17:00  
入場料：無料

会場 女子美術大学歴史資料展示室

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8  
女子美術大学 杉並キャンパス1号館1階

**美 女子美術大学**

## 言葉ととも ふりかえる 120年

女子美術大学創立120周年記念展覧会

先づ女子に對つて美術教育を施し其の字習せし所を以て女子の工芸手工其の修め日所の業務以上に進めしめ因て以て女子が自活の道に就じ得るに資して女子の社会に於ける位置を漸次高進せしめ次に女子師範学校其の他各種の女子校に於ける美術教師を養成して今日の不仕に足せしめんとす此のあり

吾肉は解剖し、吾骨は学校標本の用に宛てよ (横井玉子)

何事も天なり、命なり、人事を持つて致す事ではない (中絶)

吾肉は解剖し、吾骨は学校標本の用に宛てよ (横井玉子)

女子美術大学創立120周年記念展覧会

12月4日(金) - 12月25日(火)

休室日：火・日・祝日  
7月25日～9月12日、10月30日  
特別開室：4月7日、10月25日  
開室時間：10:00～17:00  
入場料：無料

会場 女子美術大学歴史資料展示室

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8  
女子美術大学 杉並キャンパス1号館1階

図1 展覧会「女子美術大学創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年」チラシ表・裏

女子美術大学歴史資料展示室では、展覧会「女子美術大学創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年」(2020年4月7日～12月25日)の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による学事日程の変更に伴い、臨時休室となり、学内のイベントに合わせる形で8日間のみ特別開室しました。休室の間、ウェブサイトにて展示を紹介する動画を公開しました(図4)。

本展では言葉をテーマとし、重要な人物の言葉や学校目的を示した言葉などを、歴史資料とともに展示しました。ここで展示内容から5人の言葉を紹介いたします。

**吾肉は解剖し、吾骨は学校標本の用に宛てよ。(横井玉子)**

これは、本学創立者・横井玉子の遺言です。21歳で未亡人となった玉子は、その後、教員として自立して生き、1900(明

治33)年、当時においてほぼ唯一の女子のための美術学校・私立女子美術学校を設立します。この言葉には、病魔に侵されながら、自らの命と引き換えにするかのように開校を果たした彼女の思いが表れています。

**現今女子美術の趨勢に従ひ尚一層当学校を拡張仕度幸にして豫期の通完成仕候上は堅固の法方に拠り永遠に継続致度希望に御座候(佐藤進)**

順天堂第三代堂主を務めた佐藤進は、1917(大正6)年、本学の初代理事長となり、その妻、初代校主・佐藤志津が亡くなった後、第三代校長に就任しました。この言葉は支援者に宛てた書簡の一節です(図2)。この書簡により、開校当初から志津の後ろ盾となり、各方面に支援を依頼していたことがわかります。

当時はいと違い女の子が油絵ををしたいという両親は勿論、

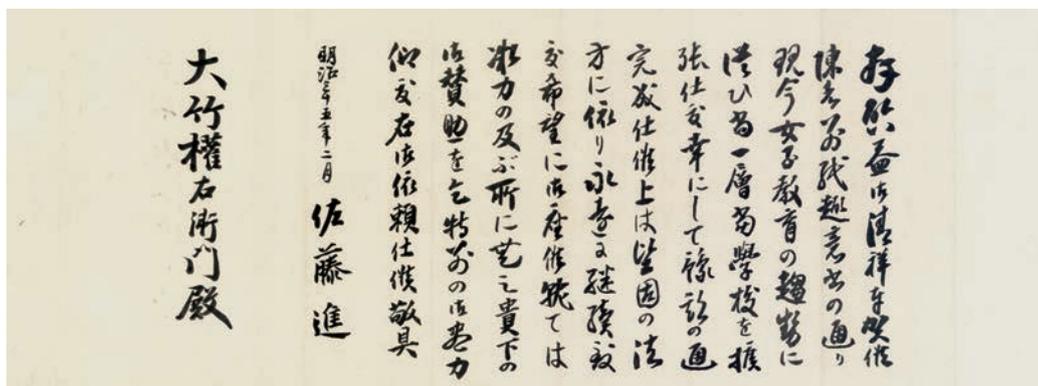


図2 佐藤進書簡 大竹権右衛門宛 1902（明治35）年5月2日



図3 展示風景



図4 女子美術大学歴史資料室ウェブサイトにて配信した展示紹介動画

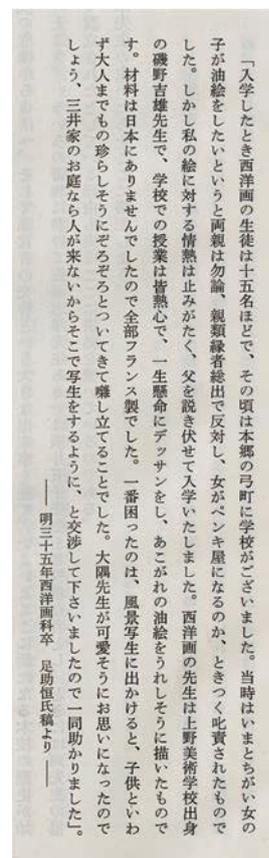


図5 足助恒の言葉『女子美術大学略史』5頁 1960（昭和35）年

親類縁者総出で反対し、女がペンキ屋になるのか、ときつく叱責されたものでした。しかし私の絵に対する情熱は止みがたく、父を説き伏せて入学いたしました。（足助恒）

本学第一期生として洋画を学び、後に西洋画科教員となった足助恒の言葉です（図5）。本学創立の1900年前後、女子が洋画を志すことに対し、当時の社会がいかに無理解であったかをうかがい知ることができます。

多数の方々のご期待によって学長に当選してしまったからには、（中略）母校女子美のために努力しなければならないと覚悟をきめました。私は自分を育ててくれた女子美が、ますます明るく楽しく勉強に精進できる学園となるよう努力したいと考えております。（三谷十糸子）

日本画家・三谷十糸子は女子美術学校日本画科高等科で学び、日展で活躍。1952（昭和27）

年、本学教授就任。1971（昭和46）年、第1回学長選挙により当選し、卒業生として初の学長に就任しました。この言葉は「学長就任に際して」の中の一節です。

失敗をおそれてはいけない。いつも心に自分の仕事の夢を描き、何度も何度もそれに挑戦してみる。他の真似ではない、本当の自己を見つめる。われわれの仕事はその点、具体的に結果が目に見えるので、まことに都

合がよい。人間として如何に生きるべきか、何が真実か、これは技術以前の大切な問題である。（柳悦孝）

染織作家・柳悦孝は、1949（昭和24）年に本学教員に、1975（昭和50）年には学長に就任しました。本学の工芸教育を支えた人物です。

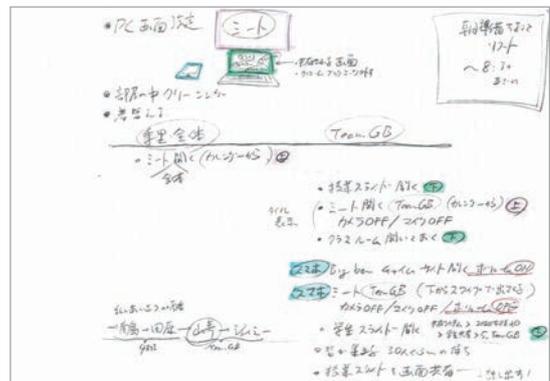
本学を支えた先人たちの残した言葉を通じ、より深くその人物を理解する機会となりました。

# コロナ禍の現状を記録する 「参加型アーカイブズ」報告

廣瀬 菜穂 (歴史資料室学芸員)



投稿タイトル：洋画研究室、発送準備に奔走す (動画53秒)  
投稿者：山内 隆 (芸術学部 美術学科 洋画専攻 教授)



投稿タイトル：オンライン環境で学生と向き合うためのマニュアルとしての「授業台本」(画像17件)  
投稿者：山崎 一也 (非常勤講師・山崎一也一級建築士事務所)



投稿タイトル：近現代美術作品の取扱 (動画14分35秒)  
投稿者：伊藤 佳之 (非常勤講師・福沢一郎記念館)



投稿タイトル：JAM博物館実習キット (画像2件)  
投稿者：藤田 百合 (特命助教・女子美術大学美術館 学芸員)

新型コロナウイルスが世界的に感染拡大する中、本学でも授業の進め方、生活様式が大きく変わりました。歴史資料室では、コロナ禍の現状を教職員の皆様に画像・動画を投稿していただく方法で、記録を残す試み「参加型アーカイブズ」を9月末から開始いたしました。特に募集している画像・動画は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を示す、新しい授業の進め方・事務部署の対応などに関するものです。

ここで現在投稿いただいた、オンライン授業や実習に関する投稿物を一部ご紹介いたします。——学生が自宅で実技を行うためのキットの準備風景動画、近現代美術作品の取り扱い方を解説した動画、オンライン環境で学生と向き合うための授業台本、博物館実習で使用する体験型ミュージアムキット——などを投稿いただきました。例年とは違うオンライン環境のため、より入念な準備がうかがえます。

また、現在も投稿を募集しております。アーカイブズ充実のため、御協力を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは歴史資料室Webサイト「参加型アーカイブズ」にてご確認ください。  
(<http://www.joshibi.net/history/>)

※現時点では教職員のみを対象にしております。投稿された画像・動画はWeb上では公開していません。

## 2019（令和元）年10月～2021（令和3）年3月

## 2019年10月

- 女子美オーラル・ヒストリー・アーカイブ構築のため、齋藤経生名誉教授、林利根名誉教授へのヒアリング実施。
- 創立記念祭開催。

## 2019年11月

- 100周年記念大村文子基金 第5回女子美栄誉賞受賞式開催。受賞者 福島瑞穂氏（洋画家・卒業生）。
- 神奈川県立歴史博物館特別展「井伊直弼と横浜」のため、藤田文蔵《ベーターベン胸像》他3点画像提供。

## 2019年12月

- 神奈川県立歴史博物館特別展「井伊直弼と横浜」のため、藤田文蔵《ベーターベン胸像》他1点を貸出。
- 野田市教育委員会発行小学校社会科副読本「わたしたちの野田市」（4年）にて佐藤志津の紹介のため、菊坂校舎の画像提供。

## 2020年2月

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響による学事日程の変更に伴い、展示室は臨時休室。そのまま展覧会終了。
- 大崎綾子特任准教授「100年前のハタチ 女学生が愛した刺繍～女子美術大学コレクションより」『ステッチ・イデー』Vol.31掲載のため、刺繍科教室写真（1920年）画像提供。

## 2020年3月

- 女子美術大学創立120周年記念番組「女子は是れ美術の天使なるべし～玉子と志津、女子美術教育に捧げた生涯～」撮影対応。

## 2020年4月

- 展覧会「女子美術大学創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年」（2020年4月7日～12月25日）開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による学事日程の変更に伴い、展示室は臨時休室。

## 2020年5月

- オンライン授業「基礎学習ゼミ 自校史」（3回）実施。
- 「萩尾望都 紡ぎつづけるマンガの世界～女子美での講義より～」(ビジネス社)のため、横井玉子写真他8点画像提供。

## 2020年6月

- コウオジェイ・マダレナ「自己に忠実に生きようとした画家一船越三枝子」『近代画説』第29号に掲載のため、船越三枝子画像提供。

## 2020年7月

- 2020年度第1回歴史資料整備委員会、第4回120周年史編纂部会開催（いずれもオンライン）。

## 2020年8月

- 女子美術大学美術館博物館実習（オンライン）1日目、4日目実施。
- 韓国国立現代美術館「誕生100周年記念-朴峯賢、三重通訳者展」の図録及び広報映像用のため、菊坂校舎・朴峯賢《藝術解剖掛図（一）全身骨格》の画像提供。

## 2020年10月

- 学校法人女子美術大学創立120周年記念式典、記念講演会、創立記念祭開催。
- 女子美術大学創立120周年記念番組「女子は是れ美術の天使なるべし～玉子と志津、女子美術教育に捧げた生涯～」BS朝日にて放映。

## 2020年11月

- 第5回120周年史編纂部会開催（オンライン）。
- テレビ東京「新美の巨人たち」のため、菊坂校舎の画像提供。

## 2020年12月

- 2020年度第2回歴史資料整備委員会開催（オンライン）。
- 展覧会「女子美術大学創立120周年記念展覧会 言葉とともにふりかえる120年」終了。

## 2021年1月

- 女子美術大学創立120周年記念番組「女子は是れ美術の天使なるべし～玉子と志津、女子美術教育に捧げた生涯～」KAB熊本朝日にて放映。

## 2021年3月

- 『女子美術大学創立120周年略年史 女子美百二十年 1900～2020』発行。
- 『講演録 学校法人女子美術大学創立120周年記念記念講演会「愛しき園よ、汝は女子美」』（講演者：大村智名誉理事長）発行。
- 女子美術大学歴史資料室ニューズレター『TEXNH MAKPA テクネ・マクラ「芸術は永し」』第14号発行。

News Letter, vol. 14-6

寄贈報告

## 2019 (令和元) 年10月~2021 (令和3) 年3月

作品・資料をご寄贈いただいた方のお名前を記し、感謝の意を表します。(御寄贈順)

- 大柳 久栄氏 関千代氏資料14件、田中愛子氏資料1件
- 羽生 基雄氏 藤田文蔵《キリスト》石膏レリーフ1点
- 郷倉 伸人氏 郷倉和子氏ホームページデータ1件
- 堤 克彦氏 堤克彦著『熊本のハンサム・ウーマン』1冊
- 公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会  
『K-PEACE (旧婦人新報)』No.21 1冊
- 谷口 秀子氏 柳悦考 (名誉教授) 切り文字2点
- 小倉 文子氏 佐野ぬい・山本耀司コラボ商品、アイコン、体操着など8点
- 安藤 恵子氏 『女子美術専門学校第四十七回卒業生記念帖』(1942年) 1冊
- 松崎 笙子氏 『IMPERIAL』No.111 1冊

News Letter, vol. 14-8

歴史資料整備委員会委員紹介

## 2020 (令和2) 年度 歴史資料整備委員会委員紹介

- 委員長 原 聖 (法人参与)
- 副委員長 広瀬 晴美 (芸術学部准教授)
- 委員 八木なぎさ (短期大学部教授)
- 小川 桂子 (外部嘱託委員)
- 谷口 秀子 (外部嘱託委員)
- 馬場 章 (外部嘱託委員)
- 上田 圭一 (歴史資料室長)
- 玉田里佳子 (事務職員)
- 川上 勇 (事務職員)

### 歴史資料の寄贈について

女子美術大学歴史資料室では本学の学校史・教育に関係する歴史資料の収集を行っております。収集にご協力いただける場合は、歴史資料室までご連絡ください。ご厚意に沿えない場合もありますので、あらかじめご了承ください。また、寄贈いただいた資料の取り扱いは、歴史資料室に一任ください。

News Letter, vol. 14-7

表紙写真

## 私立女子美術学校 教職員・卒業生

1902(明治35)年頃

1900 (明治33) 年に私立女子美術学校を創立させた後、1903 (明治36) 年に病没する横井玉子 (前列左から4人目) と、1902 (明治35) 年に初代校主となった佐藤志津 (前列左から5人目) が写っていることから、1902年頃に撮影したものと推測される。写真の右端上には、創立者で初代校長の藤田文蔵の写真が掲載されている。志津の右隣が谷田部順子 (裁縫科教員)、後列右から谷紀三郎 (教務・外国語教員)、白石行信 (職員)、磯野吉雄 (幹事・西洋画科教員)。『花にしき 女学世界春増刊』第3巻第4号より転載。



テクネ・マクラ 「芸術は永し」

# TEXNH MAKPA

女子美術大学歴史資料室 ニュースレター

第 14 号

発行日：2021 (令和3) 年3月31日

編集・発行：女子美術大学歴史資料室

制作・印刷：株式会社 日相印刷

女子美術大学歴史資料室

〒166-8538 東京都杉並区和田1-49-8 女子美術大学1号館1階

TEL：03-5340-4658 FAX：03-5340-4683

E-mail：heritage@venus.joshiabi.jp

URL：http://www.joshiabi.net/history/